

## 第3章 基本目標

### 1. 基本的な考え方: 地元愛から地域経済活性化へ

キャッチコピー

## 住人十色の魅力があるまち・国分寺

本プランは、商業を中心として農業や工業、観光等を含めた地域産業が連携しながら、市民・事業者の地元への意識を育み、国分寺市ならではの魅力を創出し、地域経済を活性化することを目的としています。

国分寺市内で魅力的な買い物体験や就業機会が得られるようになることで、市内の消費・雇用が増え、市内事業者の売上も増える状況を生み出します。市内事業者の売上は最終的に市財政へと反映され、商業・行政サービスの両面で市民生活が豊かになるという経済的な循環を生み出すものです。いわゆる「売り手よし、買い手よし、世間よし」という「三方よし」の状況をつくることも言えます。

現在の国分寺市は、消費の観点では市外への所得の流出が多く、同時に市内の個人商店における消費もそれほど多くないことが伺えます。一方、生産の面では、基幹的な地域産業は存在せず、市内事業者もそれほど多くはありません。商店も減少傾向にあり、経営者が高齢の事業所でも事業継承の目途が立っていない状況も見受けられます。

この状況が続くと、現在の良好で多様な買い物環境を将来的に維持することが難しくなることが懸念されます。結果、市民生活の豊かさはもとより、空き店舗の増加や商店会の衰退により安全・安心にも影響を及ぼすことにつながりかねません。

近年注目を集める地産地消やバイ・ローカル<sup>※</sup>運動は、地元の事業者や農業者の支援という目的よりもむしろ、消費者として買い物を楽しみながら、自分が住む地域の商業活動の衰退を避け、消費の観点から市民生活の豊かさを維持・発展させていこうという意図を持っています。国分寺市においても市内での消費を生み出し、商業を活性化させ、ひいては地域経済を活性化させることが大切です。

そのためには、市民の消費意欲を刺激することも有効ですが、長期的な視野に立って市民と事業者が国分寺市に愛着を持ち、国分寺市に対する地元愛を感じながら生活や事業を営むなかで地元の魅力を創出し、高めていくことが目標とされるべきだと考えます。

国分寺市には、商業のみならず、市内農畜産物を活用した都市型の地産地消や自然環境、歴史資源等を活かしたローカルツーリズム<sup>※</sup>等、地元の魅力につながるポテンシャルが多数あるまちです。

そこで、本プランでは、国分寺に対する地元愛を持つ人たちが、商業、農業、工業、観光等を結び合わせることで国分寺の魅力をつくり、買い物を通じて魅力を楽しむまちを目指し、上記のキャッチコピーを掲げます。

## 2. 長期目標

地元をキーワードとして、地元を愛する商業、農業、工業そして観光に関わる事業者、さらには市民が魅力を協創し、楽しむことで、結果的にその魅力に惹かれてまちを訪れる人が増えることが目標となります。そこで、本プランにおける長期目標を次のように定めます。

### 長期目標

**地元愛を持って仕事をする人たちがまちを盛り上げ、  
まちに住む人・訪れる人が地元を楽しむことで、  
売り手よし・買い手よし・世間よしの関係で地元経済を活気づける**

そのためには、市民・事業者・来街者それぞれの立場において、次のような人たちを増やすことが求められます。

- ①自分の仕事を通じて地元を盛り上げ、利益を高める**事業者を増やす**
- ②買い物や飲食を通じて地元を楽しもうとする**市民を増やす**
- ③国分寺が好きで訪れる**市外在住者を増やす**

事業者が何らかのアクションをするためには売上につながる見通しが前提となりますが、そのためには地元を楽しむ市民や地元を盛り上げようとする市内事業者間での受発注関係が必要です。一方、消費者となる市民においては、満足感や充足感を感じられる消費体験が得られなければ、JR中央線沿線のように恵まれた買い物環境のなかで地元を選ぶ理由はありません。

商業、農業、工業に関わる事業者が連携して地元の魅力をつくり出し、その魅力が市民に伝わり、バイ・ローカルの意識を醸成することで、市民が消費者として地元を楽しみ、さらに地元が盛り上がるという循環を生み出すことが求められます。

その循環が市内から市外へと広がるように情報発信をすることで、上記③の来街者の増加へと展開できると考えます。同時に、自然や史跡等の国分寺市の資源をつなげ、さらに商業と関連付けることで回遊性・滞在性を高め、市外からの来街者を増やす取組も同時に必要となります。

## 第4章 施策体系

### 1. 6つの方向性

本プランでは、長期的目標及び具体的な目標に基づき、6つの方向性を設定します。10年間に  
ける施策・事業は、これら方向性に沿って体系化し、それぞれの目標に照らして推進していきます。

また、方向性毎に第Ⅰ期(平成29～32年度)において重点的に取り組む事業を設定し、その事業  
を中心とした施策・事業について進捗と成果を平成32年度に評価します。

#### 方向性1 「国分寺らしさ」の協創

商業振興プラン以降、「国分寺らしさ」をブランディングすることを課題として取り組んできました。し  
かし、現時点では、まだ明確にその魅力を打ち出せていない状況であることを踏まえ、本プランにおい  
ても、事業者と市民がともに「国分寺らしさ」を協創し、さらには市外にその魅力を発信することを目指  
します。

そのためには、事業者と、消費者である市民がそれぞれにおいて国分寺に対する地元愛を持ち、  
事業者においては個々の事業はもとより、農商工連携※を通じて相乗効果を生み出すことを通じて地  
元の魅力を打ち出し、市民においては消費行動を通じて地元を活性化するという、商業振興プランで  
も示された「地売地消」の関係を築くことが重要です。

#### 方向性2 地元を楽しむ買い物の促進

地元の魅力をつくり、「国分寺らしさ」へとつなげるためには、魅力ある買い物環境を素地として形成  
するとともに、市民が消費者として地元で買い物をすることが不可欠です。国分寺市は、立川や吉祥  
寺、さらには新宿の商圈に含まれますが、事業者が作り出す地元の魅力を市民が実感し、消費  
行動へとつなげていくことが大切です。

そのためには、市民に対して買い物を促すための広報やイベントのような直接的な取組とともに、中  
長期的な視野に立ち、農商工が連携し、地元愛を持ち、地域で買い物をしようとするバイ・ローカルの  
意識を持った市民を増やしていくことが有効だと考えます。そこで、地元を楽しむ買い物へとつながる  
ような地元愛を醸成していくことを目指します。

#### 方向性3 まちづくりと連動した買い物環境の向上

「国分寺らしさ」をつくるためには、地域に根付き、地元の魅力や活性化につながるような事業を展  
開していくことが大切です。そして、個々の事業をつなぎ、消費者が地元の魅力を感じ、それを楽しめ  
るような環境を面的に展開していくことも大切です。

近年、市内では、地元を盛り上げようとする事業が多数実施されており、それらの動きを線としてつ  
ないでいくことが必要です。また、駅前や商店会等の周辺まちづくりはもとより、まちづくりと連動した買  
い物環境の向上や既存ストック※を活用した商業展開を図ることで、市内農畜産物を気軽に購入でき  
る等、市内各所で地元を楽しむ買い物環境を形成することを目指します。

#### **方向性4 資源を活かした回遊性・滞在性の向上**

国分寺市は、武蔵国分寺跡をはじめとする史跡、湧水や緑等の豊かな自然、そして都市近郊ながら脈々と続く農業が魅力的なまちです。特に都立武蔵国分寺公園の周辺は、史跡や自然に恵まれており、市民ランナーや見学に訪れる人も少なくありません。また、市北部の北町・並木町には農地が点在しているほか、市内各所に旧家や石碑・塚が点在しています。

それら既存の資源を活かし、マップ等で見える化することで市外からの誘客と回遊を促すとともに、ICT等の活用を通じて商業・サービスと資源を結び付けることで時間消費(滞在)<sup>※</sup>を高めることを目指します。

#### **方向性5 起業・創業がしやすい環境の形成**

起業・創業はもとより、市内での雇用を増やすことは、地域産業の活性化という側面のほか、昼間人口の増加による消費者層を厚くすることにもつながるものです。

起業・創業については各地で取り組まれており、国分寺市でも、商工会等と連携して取組を進めてきた分野です。これまでの成果をさらに充実させ、相談対応や講座、資金面での支援はもとより、市内の商業・工業・農業における産業資源や、空き家・空き店舗等の既存ストックを活かすことで、起業・創業を誘引することを目指します。

#### **方向性6 地域産業の持続性を高める体制構築**

「国分寺らしさ」が市民はもとより、市外在住者にも認知され、定着するためには、地元根差して魅力をつくりだす事業者や商店会、市内での起業・創業者等が地元で定着し、将来にわたって操業を続けていけることが大切です。助成制度に加えて、操業や資金調達に関する相談等の支援や、そのための組織づくりが必要です。

商店会の法人化や観光協会の自主的な取組を促しながら、商業・工業・農業・観光に係る団体が連携し、さらには大学や金融機関とも提携しながら、事業者を支援する組織体制を構築することを目指します。

## 2. 施策体系図

キャッチコピー

**住人十色の魅力があるまち・国分寺**

長期目標

地元愛を持って仕事をする人たちがまちを盛り上げ、  
 まちに住む人・訪れる人が地元を楽しむことで、  
 売り手よし・買い手よし・世間よしの関係で地元経済を活気づける

### 地元経済の活性化：

市内での消費が増え、市内事業者がうるおい、めぐりめぐって市民生活が豊かになる

#### 地域の状況

- 市内での消費が増える
- 市内のお店の魅力が高まる
- 市内で仕事生まれる

#### 市民・事業者の状況

- 国分寺で買い物したい人が増える
- 国分寺で魅力ある商売をする人が増える
- 市内で仕事(起業・創業)をする人が増える

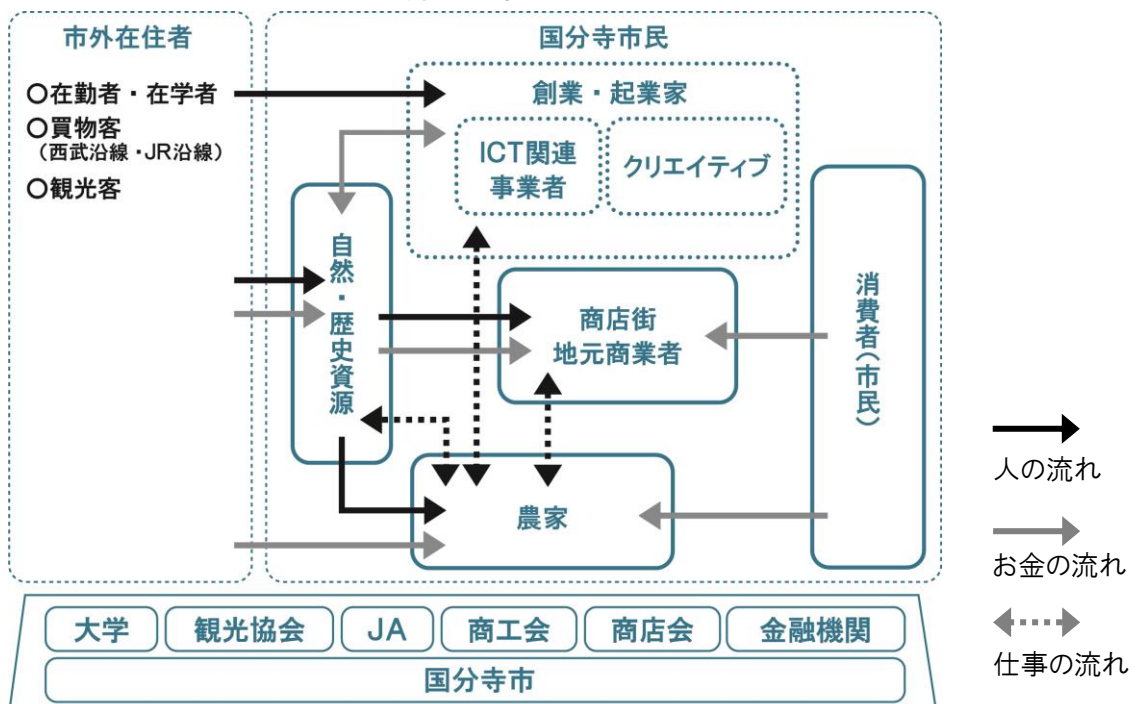
具体的な目標

自分の仕事を通じて地元を盛り上げ、利益を高める事業者を増やす

買い物や飲食を通じて地元を楽しもうとする市民を増やす

国分寺が好きで訪れる市外在住者を増やす

### 【地元経済の循環フロー】





## 方向性

### 1. 「国分寺らしさ」の協創

事業者と、消費者である市民がともに、地元愛に根差した「国分寺らしさ」を協創することを目指します。さらに本プランの取組を一体的にプロモーションすることで、市外からの来街者を増やします。

### 2. 地元を楽しむ買い物の促進

「国分寺らしさ」を感じることができる買い物環境を形成するとともに、地元愛を持ち、地域で買い物をしようとするバイ・ローカルの意識を醸成し、「国分寺らしさ」を楽しむ市民(消費者)を増やしていくことを目指します。

### 3. まちづくりと連動した買い物環境の向上

地元での様々な事業をつなげるとともに、まちづくりと連動した買い物環境の向上や既存のストックを活用した商業展開を図り、地元を楽しむ環境を市内各所に面的に広めることを目指します。

### 4. 資源を活かした回遊性・滞在性の向上

歴史・自然・農といった既存の資源を、ストーリーをもって結び付け、ICT等を活用して回遊を促します。さらに商業・サービスとも連携することで、市内での滞在性を高めることを目指します。

### 5. 起業・創業がしやすい環境の形成

相談対応や資金面での支援はもとより、既存の商・工・農業及び産業資源や、空き店舗・空き家等の既存ストックを活かし、市内での起業・創業をしやすい環境をつくることを目指します。

### 6. 地域産業の持続性を高める体制構築

「国分寺らしさ」を感じる事業者や起業・創業家が定着し、将来的に操業を続けていけるように支援する制度を検討するとともに、商工会・JA・商店会、さらには大学や金融機関等と連携した組織づくりを進めます。

## 第Ⅰ期の課題

事業者と市民が共有できる「国分寺らしさ」を見出すため、既存の事業者や事業のなかから「国分寺らしさ」を見出し、市内外に広く発信する必要があります。

地元を楽しむ買い物をする市民を増やすためには、まず市民のなかで地元愛を醸成し、バイ・ローカルの意識を持つ機会を設ける必要があります。

道路環境の現状を踏まえ、国分寺駅前をはじめ、市内各所の商店街で、ぶらぶら歩きを楽しめる環境をつくる必要があります。

史跡や自然が集積する都立武蔵国分寺公園周辺の回遊性・滞在性を高めるため、商業と資源の連携を高める必要があります。

起業・創業がより促進され、市内定着を進めるためにも、産業競争力強化法<sup>※</sup>に基づく創業支援事業計画<sup>※</sup>に位置付けた事業をより一層充実させる必要があります。

商店会の法人化は様々なメリットがあることから、行政としての支援の在り方を検討することで、商店会の法人化を促す必要があります。